今は昔、忠明といふ検非違使ありけり。若男にて
係助 格助 四段・体 ラ変・用 過去「けり」終 断定「なり」用 接助

いさかひをしけり。京童部、刀を抜きて、忠明を
格助 過去「けり」体 格助 過去「けり」終 格助 四段・用 接助 格助 四段・用 接助 格助

立て込めて殺さむとしければ、忠明も刀を抜き
下二・用 接助 意思「む」終 過去「けり」已 係助 格助 四段・未 格助 サ変・用 接助 四段・用

て、御堂の方ざまに逃ぐるに、御堂の東の端
接助 格助 格助 下二・体 接助 格助 格助 過去「けり」体

に、京童部あまた立ちて向かひければ、その傍に
格助 四段・用 接助 四段・用 過去「けり」已 接助 格助

え逃げず(しとみ)して、蔀のもとのありけるを取りて、
副詞 打消「ず」用 下二・未 接助 格助 格助 過去「けり」体 格助 ラ変・用 四段・用 接助

脇にはさみて、前の谷に躍り落つるに、蔀の
格助 四段・用 接助 格助 格助 上二段・体 接助 格助

もとに風しぶかれて、谷底に鳥のねるやうに、
格助 四段・未 接助 格助 上二・体 比況「やうなり」用（助動詞）

やうやく落ち入りにければ、そこより逃げて去に
副詞 四段・用 完了「ぬ」用 接助 格助 下二・用 接助 ナ変・用

けり。京童部、谷を見下ろして あさましがりて
過去「けり」終 格助 四段・用 接助 四段・用 接助

なむ立ち並みて見ける。
係助 四段・用 接助 上一・用 過去「けり」体

忠明、京童部の刀を抜きて立ち向かひける時、
格助 格助 四段・用 接助 四段・用 過去「けり」体

御堂の方に向きて、「観音、助け給へ。」と
格助 格助 四段・用 接助 下二・用 四段・命 格助

申しければ、ひとへにこれその故なりとなむ
四段・用 過去「けり」已 接助 副詞 格助 断定「なり」終 格助 係助

思ひける。
四段・用 過去「けり」体 ⓢ忠明→観音

忠明が語りけるを聞き継ぎて、かく語り伝へたる
格助 過去「けり」体 四段・用 格助 四段・用 接助 副詞 下二・用 存続「たり」体

とや。
係助 格助

今となっては昔のことだが、忠明という検非違使がいた。（忠明が）若い男であった時、清水寺の橋殿で、京童部と、けんかをした。京童部が刀を抜いて、忠明をとり囲んで殺そうとしたので、忠明も刀を抜いて、本堂の方へ逃げると、本堂の東の端に京童部がたくさん立って（忠明の方に）向かってきたので、そちらの方に逃げることが出来ず、蔀の下の戸があったのを取って、腋に挟んで、前の谷に飛び下りたのだが、蔀の下の戸に風が滞って（蔀が風を受けて）、谷底に鳥がとまるように、ゆっくりと落ちたので、そこから逃げ去りました。京童部達は、谷を見下ろして驚きあきれて立ち並んで見ていました。

忠明は、京童部が刀を抜いて立ち向かってきた時、本堂の方を向いて「観音様、お助け下さい。」と申し上げたので、まったくこれはそのおかげだと思った。

忠明が語ったのを聞き継いで、このように語り伝えているとか（いうことである）。

©高校古文No.1授業ノート　https://kobun.info/